

水稲新技術検討会・結果報告会の開催

石川農林総合事務所

当事務所では、水稲を主体とする担い手農家の経営体質強化を推進するため、①水稲の低コスト技術(直播など)と増収技術(多収性の晩生品種利用など)の普及、②大麦、大豆、新規需要米、酒米、ソバ等の生産の拡大、③園芸品目導入による米以外の収益確保推進を掲げ、「石川型水田農業」として展開しています。

平成27年度から、石川農林総合事務所が担い手農家の実験展示ほ場の現地巡回や結果報告会を開催しており、平成28年度は、7月7日に「増収・低コスト化に向けた水稲作新技術研修会」と題した実験展示ほ場の現地巡回を行い、また、12月16日に実験結果報告会を開催しました。

実験展示ほ場の現地巡回では、『「石川65号」の単収700kg取り挑戦ほ場』や『ブルドーザーを使ったV溝直播ほ場』など計6箇所のほ場を60名で見学し、意見交換を行いました。

実験結果報告会では、80名が参加し、石川農林総合事務所による実験展示ほ場の成績報告とともに土づくり研修や有望な園芸品目(トマト、ブロッコリー、ねぎ、フリージア)の紹介も行い農家への「石川型水田農業」の推進を図りました。

当事務所では、今後も水稲主体の担い手農家に対して、経営体質の強化に向けた活動を行っていきます。



実験ほ場の見学風景



65号ほ場の見学



結果報告会



報告会の中での土づくり研修

問い合わせ先：石川農林総合事務所 農業振興部
(076-276-0371)